

平成25年度宮城県放課後子ども教室指導者等研修会

開催日：平成25年1月14日（木）

会 場：宮城スタジアム(インタビュールーム)

1 研修会の目的

宮城県放課後子ども教室に対する理解と放課後子ども教室に関わる指導者の資質向上を図るとともに、放課後子ども教室に関わる関係者等の情報交換・情報共有を図ることで、放課後における児童の健全育成を推進することを目的とする。

2 参加者

役 職 名	参加人数
コーディネーター	29人
教育活動推進員（学習アドバイザー）	9人
教育活動サポーター（安全管理員）	28人
教室活動スタッフ（ボランティアスタッフ等）	11人
行政職員	21人
計	98人



定員100名の会場が一杯になりました。
【インタビュールーム内】

3 内容

【講演】 演題：「子ども・地域を活かす放課後子ども教室の運営」
講師：千葉大学名誉教授 明石要一氏

千葉大学名誉教授の明石先生をお迎えして「子ども・地域を活かす放課後子ども教室の運営」と題して講演会を行いました。先生の講演は、現代の子どもたちの特性を的確に捉え、受講者にとって親しみやすく大変分かりやすいものでした。時には「笑い」の要素を含めながらの講話で、会場内は常に和やかな雰囲気が漂っていた90分間でした。

講演の端々から、

- ① 放課後子ども教室を子どもたちの「赤ちょうちん」に。
- ② 本来の「ままごと」は、切ったり調理したりすることだが、最近は配膳遊びになっている。
- ③ 昔はたくさんいた「従兄弟」が現在ではほとんどいなくなった。従兄弟は人生で最初のライバルであり競争心を形成するもの。
- ④ 小学校3・4年生の遊びが消えた。体験にはゴールデンエイジがある。体験からより多くのことを学習できるのは小学校4年生まで。
- ⑤ 子ども教室で心がけてほしいことは、「今を生きる」こと。小学校2・3年生は「遊びほうける」事も大切なこと。

など、示唆に富んだお話をいただきました。

先生のお話から受講者の皆さんはたくさんの方に気づかされ、考えさせられたことと思います。放課後子ども教室が「安心な居場所」、「実体験の場所」、「人間関係（社会性）を養う場所」、さらには、「楽しい場所」でなければならないことを、明石先生の講話から改めて考えさせられた受講者も多くいたことでしょう。



明石先生のユーモラスな語り口に、受講者は釘付けになりました。

【情報交換会】

講演終了後、8つのグループに分かれ情報交換会を行いました。日頃、教室運営についての悩みや、成功例、失敗例など自由に話し合ってもらいました。終了予定の時間が過ぎても熱心に話し込んでいるグループもありました。



情報交換会の様子



～研修に参加しての感想～

- 大変楽しく受講できました。ガリ勉じゃない人が成功するに“拍手”。
- 子ども教室がこれから子どもたちを育てる大事な場所だと痛感しました。公園にいるうるさいお婆さんのイメージで見守っていましたが、見守るだけではダメなんだと思いました。ただ、私たちが小さい時に体験したことを子どもたちに教えてあげればいいんですね。
- 今の子どもたちについて具体的事例をたくさんお話しいただき、その現状にどう対応していけば良いのかということまで示唆をいただきました。今後の運営に活かしていきたいと思います。
- 明石先生のお話は活動スタッフとしてはもちろん、親として、地域に関わるべき人間としてとても興味深く楽しいお話ばかりでした。講演を聞いて本当に良かったです。たくさんおもしろいヒントが詰まっていたので、早速子どもたちに伝えたり活用したいことがあります。
- とてもたのしいお話でした。自分たちのしていることが子どもにとって大切な役割を担っていることを改めて感じました。やりがいも感じます。自分なりに勉強したり、工夫をしながら子どもたちと楽しくやっていきたいと思いました。興味深いお話をありがとうございました。
- まさに社会教育一筋！！，という感じでとても興味をそそられるとても楽しい時間でした。子どもたちの「赤ちょうちん」の場を大切に子どもたちを見守っていきたいです。